

国立大学法人等の基幹設備(ライフライン)に係る実態把握について

1. 調査目的

国立大学法人等の基幹設備(ライフライン)のうち、幹線部分の配管・ケーブル等の整備実態及び更新計画の策定状況等を的確に把握し、今後の整備に係る事業の推進及び次期5か年計画のより具体的な検討に資するため。

2. 調査対象

国立大学法人，大学共同利用機関法人，(独)国立高等専門学校機構
(独)大学評価・学位授与機構，(独)国立大学財務・経営センター

3. 範囲

基幹設備(ライフライン)のうち、幹線部分の配管・ケーブル等の整備実態及び更新計画の策定状況等

(特別高圧受変電設備等の建築設備の主要部分は毎年の定例調査で別途調査を行う。)

4. 調査内容(主なもの)

① 国立大学法人等の保有状況等を把握するため

- ・保有している設備の種別(屋外給水管や屋外排水管，屋外電力線など)
- ・保有している設備の把握状況(把握済み又は把握予定年度)
- ・保有している設備の更新計画策定状況(策定済み又は策定予定年度)

② 老朽化の状況を把握するため

- ・配管・ケーブルの経年別の敷設長さ
- ・漏水・停電等の事故の発生状況 等

③ 更新費用を把握するため

- ・敷設形態(埋設，共同構内など)別の敷設長さ
- ・配管・ケーブルの種類別の敷設長さ
- ・配管・ケーブルのサイズ別の敷設長さ 等

5. 提出期限：平成27年3月31日

6. 今後のスケジュール

調査表の提出後に調査データの集計及び分析を行い，国立大学法人等が保有する基幹設備(ライフライン)の保有実態を把握すると共に更新が必要な整備量の試算を行う。

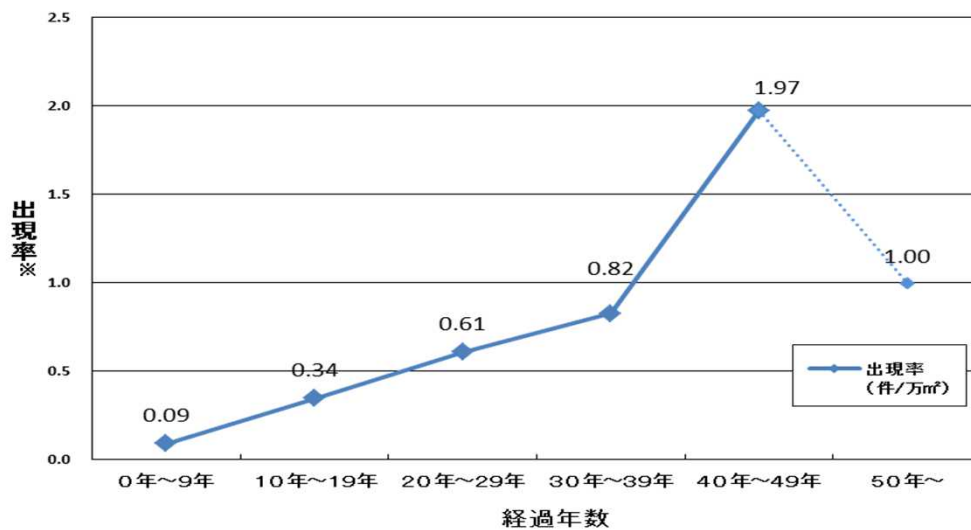
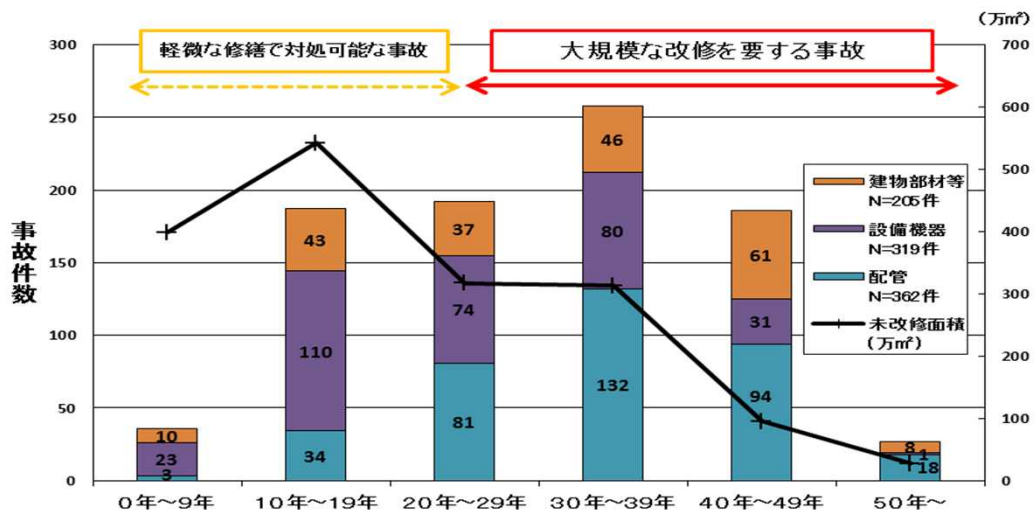
基幹設備(ライフライン)の事故・不具合の状況



排水管(経年36年)
劣化により腐食、破損し、
排水が漏洩



ガス管(経年32年)
ガス管の腐食によりガス
漏れが生じたため、停止



出典: 文部科学省調べ

基幹設備(ライフライン)及び建物部材等の経年と事故発生件数の関係(H16~)